

CP (カリキュラムポリシー) アセスメント

【理工学部カリキュラムポリシー】

1. 教育課程の編成

ア. 専門性と展開力

2年次から4年次にかけて、各学科に設置した専門コース毎に体系的なコース科目と、情報科目を設けるとともに、コース科目等は講義のほか、演習、実験、PBL、アクティブラーニング、卒業研究など様々な教育方法により教授する。

イ. 強靱性と俯瞰力

1年次から3年次にかけて、自然科学と情報・データを扱う基礎科目及び地域連携科目を設けるとともに、自身の専門分野と関係性の高い他の専門基礎科目を学科共通科目として設ける。

ウ. 社会性とコミュニケーション力

1年次から3年次にかけては、次の教育課程を編成する。

- ・一般教養教育として、人と社会に関する科目を設ける。
- ・国際コミュニケーション力の基礎として、日本人学生には英語を中心とした外国語科目を、外国人留学生には日本語科目を設ける。
- ・様々な授業科目においてアクティブラーニングを展開する。

2. 学習成果の評価

○評価方法

各授業科目の到達度目標の達成度を評価すべく、授業担当教員は、授業科目の特徴を踏まえた多面的評価を行う。

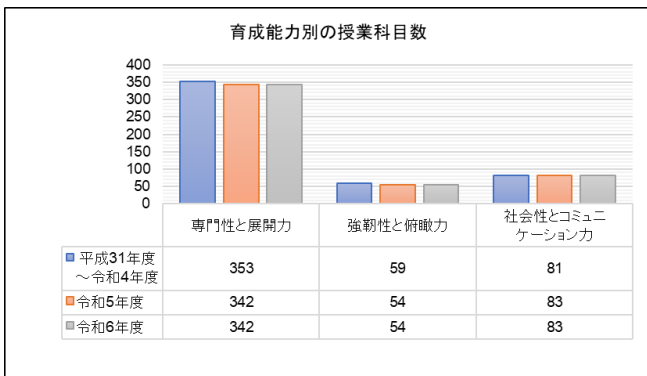
- ①講義科目及び演習科目については、筆答試験、レポート、作品、発表により評価する。
- ②実験科目及び実習科目については、レポート、発表、実技により評価する。
- ③ゼミナール及び卒業研究については、活動内容、論文、発表により評価する。
- ④授業科目によっては、多面的評価を実現するため、小テストや中間試験等を行い、評価に活用する。
- ⑤授業科目によっては、多面的評価を実現するため、TOEIC等の外部試験を評価に活用する。

○成績評価方法の明示

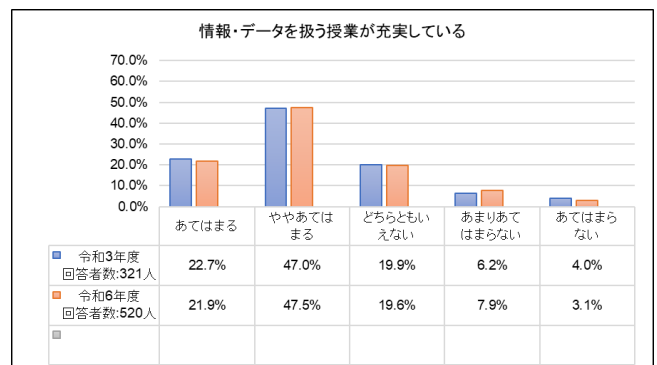
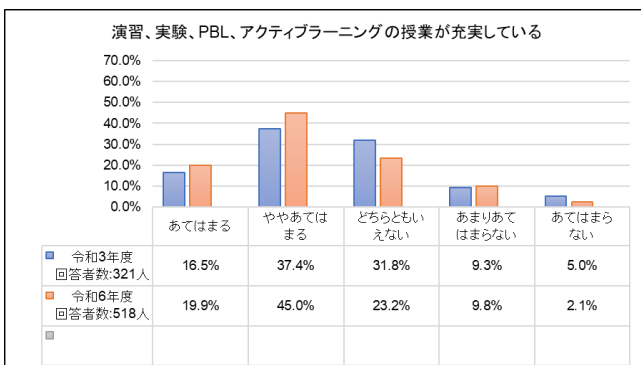
授業科目の成績評価方法については、シラバスに明示する。

【アセスメントデータ】

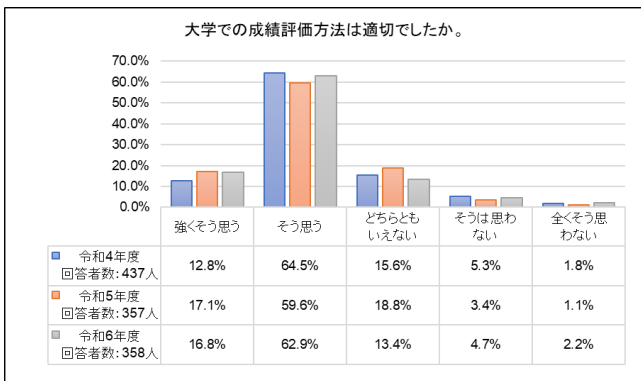
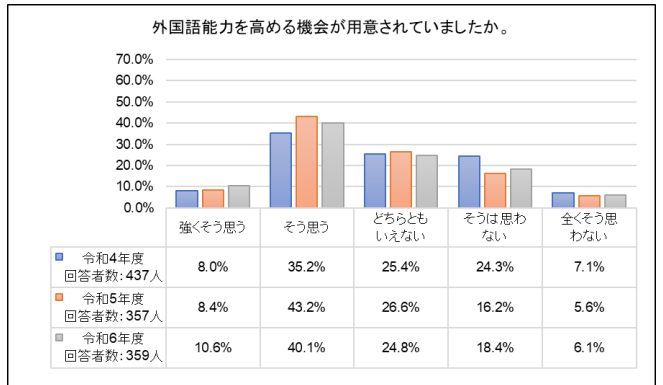
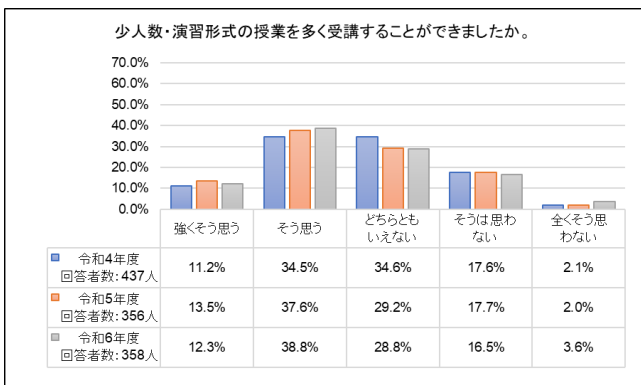
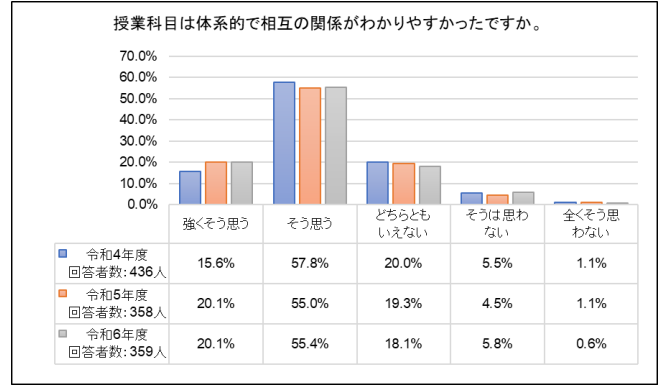
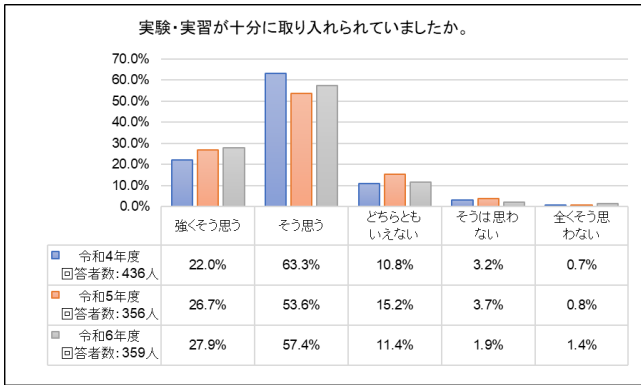
〔育成能力別の授業科目数〕



〔在学生アンケート〕



〔卒業予定者アンケート〕



【評価結果】

育成能力別の授業科目数については、「専門性と展開力」が最も多く、次いで「強靱性と俯瞰力」、「社会性とコミュニケーション力」の順であり、年度推移は大きな変化がなく、専門教育の厚みが維持されている。

授業科目の体系的・相互関係の分かりやすさについては、「強くそう思う／そう思う」の肯定回答が73.4～75.5%と高めの水準であり、体系的にコース科目を設置していることが認識されている。

演習、実験、PBL、アクティブラーニング、情報科目の実施については、在学生アンケートでは「あてはまる／ややあてはまる」の肯定回答が53.9～69.8%と概ね良好であるほか、卒業予定者アンケートでは実験・実習が十分に取り入れられていたかどうかについて「強くそう思う／そう思う」の肯定回答が80.3～85.3%と高水準であり、理工系の実践的学びが十分に提供されていることが評価されている。

一方で外国語能力向上の機会については、卒業予定者アンケートでは「強くそう思う／そう思う」の肯定回答が43.2～51.6%とやや低めであり、国際コミュニケーション力の育成機会の拡充が課題である。

DP (ディプロマポリシー) アセスメント

【理工学部ディプロマポリシー】

学位授与方針

ア.「専門性と展開力」

専門分野の知識と技術を体系的に身に付け、それらを駆使して(専門性の獲得)、様々な場面において課題を発見し、実現可能な解を見出し、社会に生かす能力(展開力)を身に付ける

イ.「強靭性と俯瞰力」

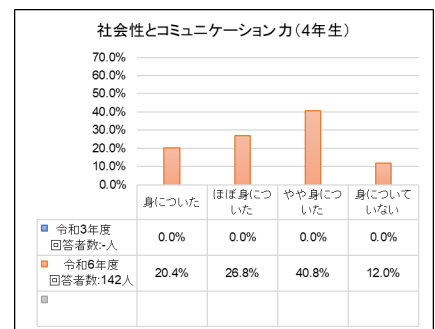
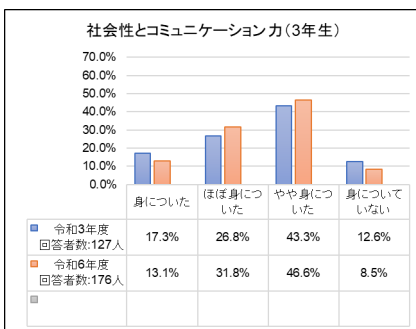
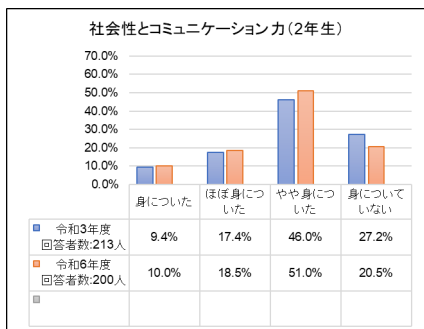
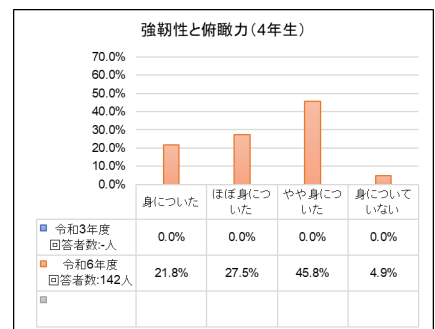
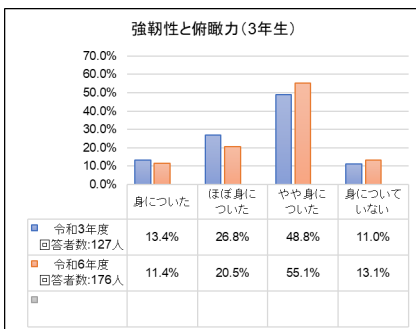
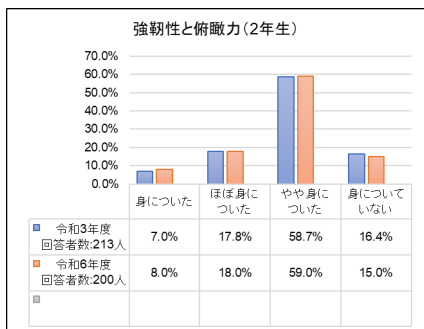
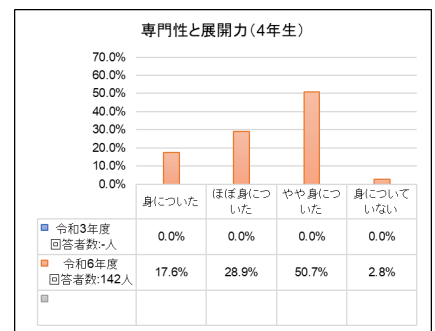
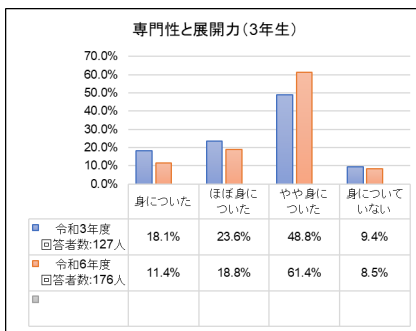
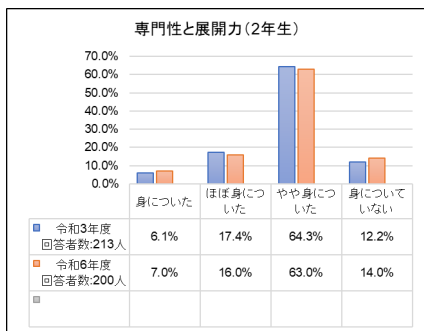
理工学の基礎知識と複数の専門における基盤的な学問の基礎知識及び情報・データを扱う基礎知識と技術を確実に身に付ける(強靭性の獲得)とともに、社会の課題を俯瞰的に見る能力(俯瞰力)を身に付ける

ウ.「社会性とコミュニケーション力」

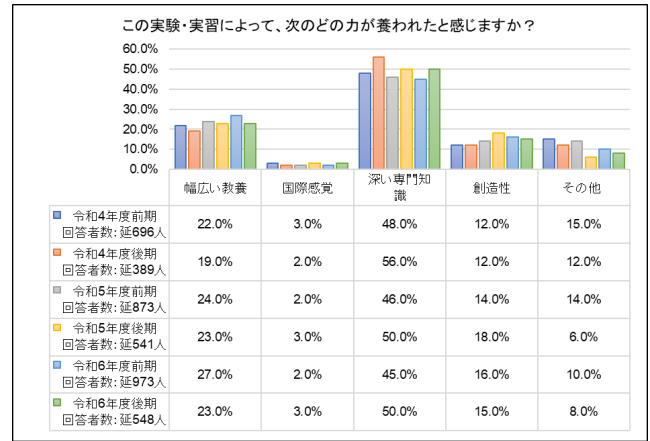
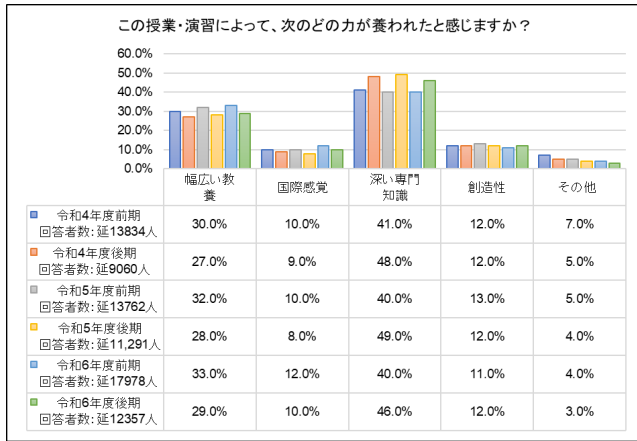
自らが継続的に学習し、豊かな人間性の基礎となる教養(社会性の獲得)と多様な人とコミュニケーションをとり協働する能力(コミュニケーション力)を身に付ける

【アセスメントデータ】

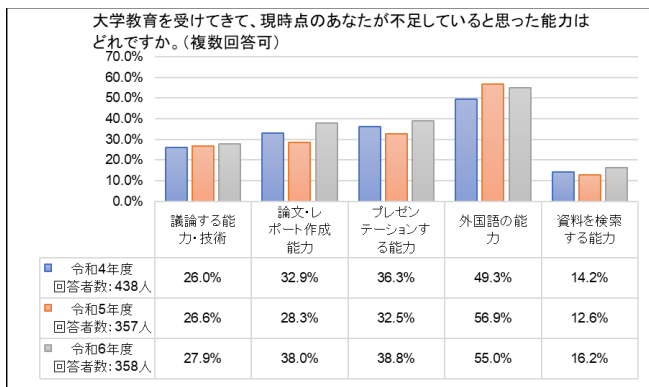
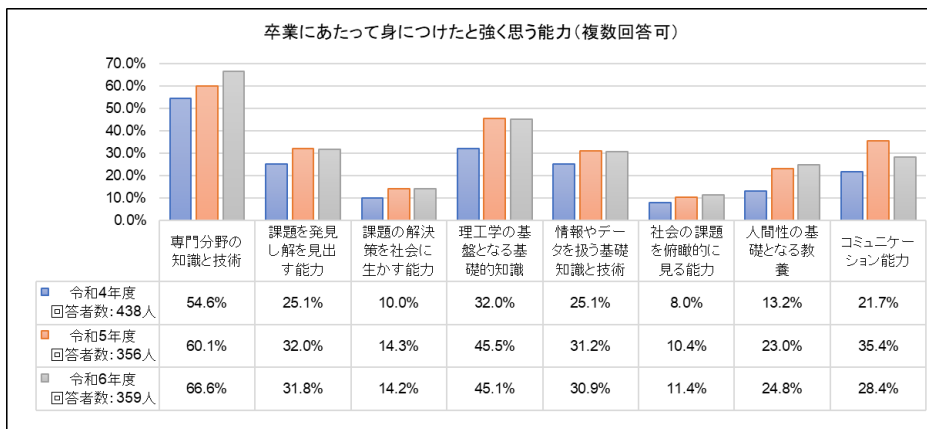
〔在学生アンケート〕



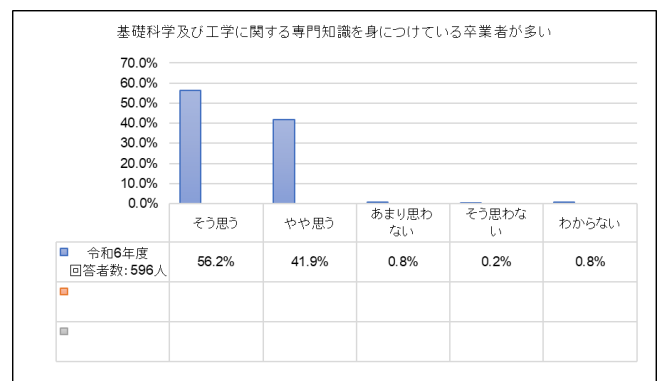
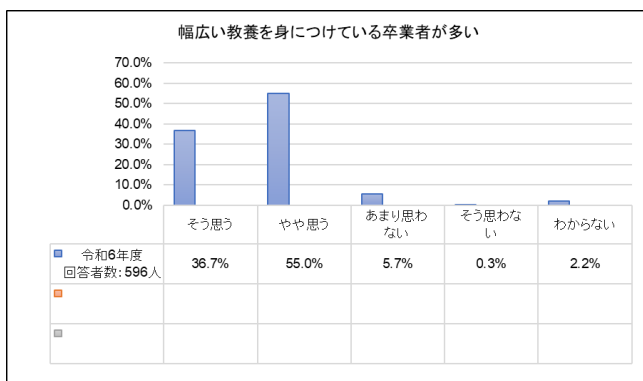
【授業評価アンケート】

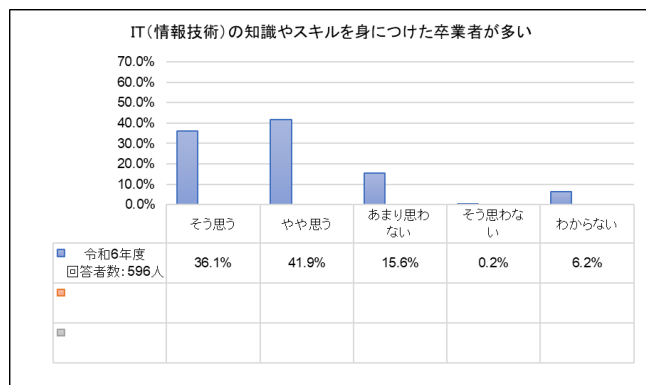
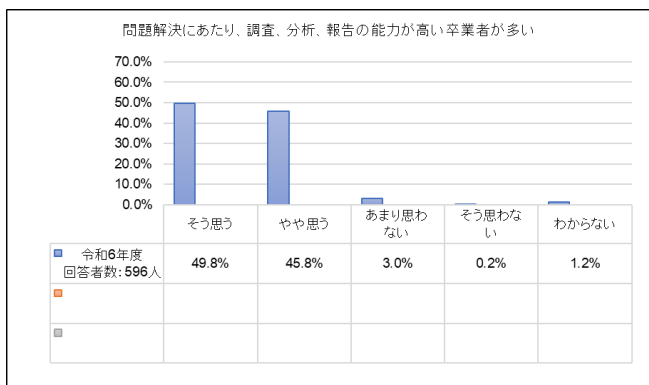
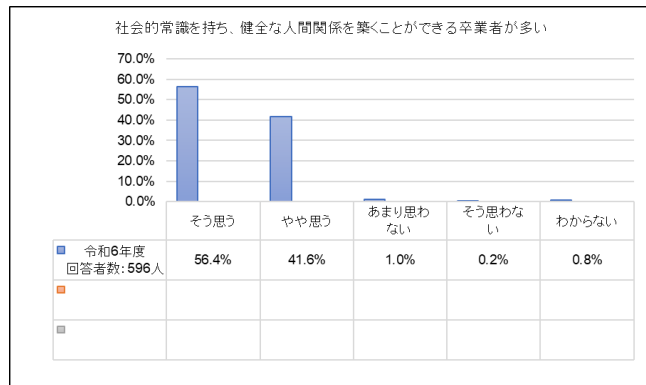
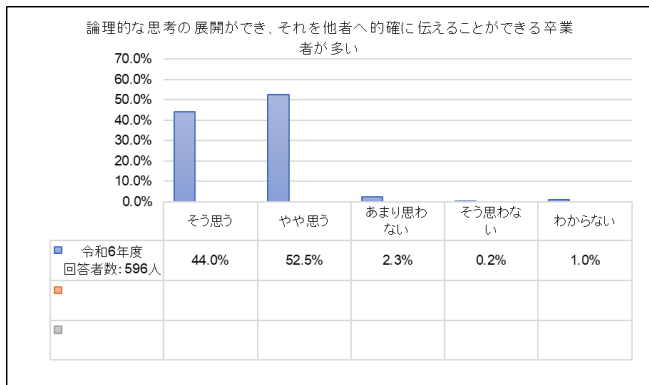


【卒業予定者アンケート】



【企業アンケート】 ※理工学部卒業生のほか、工学部卒業生を含めた回答となっている。





〔卒業生アンケート〕

※理工学部卒業生を含むアンケートの実施は、令和9年度を予定している。

【評価結果】

在学生アンケートでは、いずれの項目も学年が上がるほど「やや身についた／身についた」の比率が増えていることから縦の学習成長が機能していると言える。

卒業予定者アンケートの「卒業にあたって強く身につけたと思う能力」では、「専門分野の知識と技術」が54.6～66.6%と最も高く、次に「理工学の基盤となる基礎的知識」、「課題を発見し解を見出す能力」、「情報やデータを扱う基礎知識と技術」の順となっており、「専門性と展開力」「強靱性と俯瞰力」を身につけた人材を輩出していると言える。

一方で「人間性の基礎となる教養」、「コミュニケーション能力」は平均20%と低い水準にあるが、設問が「強く身につけた」と強調していることから、単に「身につけた」と考えている者は含まれていないためである。企業アンケートを見ると「幅広い教養を身につけている卒業生が多い」、「社会的常識を持ち、健全な人間関係を築くことができる卒業生が多い」の「強くそう思う／そう思う」の肯定回答が91.7～98.0%と高水準であり、「社会性とコミュニケーション力」を身につけた人材を輩出していると言える。